

指定校番号	28002	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立東浄小学校	校長	福島 誠	生徒指導主事	前田 佐織
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『みんなで遊ぼうクイズラリー』

取組のねらい『友達の輪を広げよう』

全校みんなで児童会行事をすることで、他学年との交流を深め、友だちの輪を広げる。

取組の具体的内容『児童の児童による児童のための児童会活動』

5種類のゲームと25問のクイズをチームで解き、ポイントを競い合う。

後日、運営委員が採点し、放送で結果を発表する。ゲームの内容や準備は運営委員会が計画し、クイズは運営委員会が7問、各クラスが1問ずつ考える。

今年のゲームは、ハンバーガータワー、フリースhoot、ものあてゲーム、ジェスチャーゲーム、くつひも結びチャレンジがあった。異学年交流として、1年生は6年生、2年生は5年生、3年生は4年生とチームを組み、1チーム約8名のグループを作って行う。



取組の課題・創意工夫『見通しをもった取組』



クイズラリー当日までに2回、顔合わせの会が計画されている。自己紹介やメンバー表、名札作り、ゲームの回り方や役割分担などの作戦会議を行った。しっかり顔と名前を覚え、当日は、高得点を目指して頑張ろうと励ましあう機会となった。また、給食時間に、ゲームのやり方やルールを運営委員会の児童がビデオで紹介し、共通理解を図る工夫をした。当日は、混雑を防ぐため、スタート場所を2箇所設けた。迷子コーナーも設置したが、迷子になる児童はいなかった。このことから、どのグループもチームワークをもって活動できたと感じた。今後は

この異学年グループを別の活動に生かしていくことが今後の課題である。

取組の成果（効果）『自信を持たせる児童会活動』

「クイズで分からない問題を、6年生に教えてもらった。」と喜んでいる1年生や、「下学年に対して優しく接することができた。」と満足した様子の児童が大勢いた。また、「励ましてくれたり、意見を聞いてくれたりしたことが嬉しかった。」という意見も出た。児童一人一人の表情からは、満足した様子が伺えた。

異学年交流により、下学年児童は上学年児童からいい影響を受け、上学年児童は下学年児童へ支援することで

自己有用感を増す機会となったと考える。また運営委員の児童も計画から実行、振り返りを行うことで、ゴールを意識し、見通しをもって活動することができた。児童会を中心に活動を行うことで、児童が自ら考え、計画し、実行する力を養う絶好の機会となったと考える。児童が主体的に活動していることを感じ、自信をもつ場を設定し、自尊感情を育む機会となったと考える。



今後の展開『児童会活動から学年・学級活動へ』



このような児童会活動を今後も継続していきたい。運営委員会だけでなく生活委員会、体育委員会など各委員会が中心となり、学校を元気に明るくする活動を行っている。このような取組を参考にし、学年や学級単位で、児童自らが計画し、運営する機会を増やし、成功する喜びや満足感、失敗から学ぶ経験を積み、次回につなげていく力や意欲につながる取組を広げていきたい。

他校へのアドバイス『継続していくことで学校の文化に』

学年の枠組みを超え、異学年交流を行うことを通して、共感的人間関係を作っていく取組となり、児童同士の仲間意識を育む場ともなる。この取組を継続していくことが学校の文化を作っていくことにもつながると考える。

